

# 審判の流れ・役割

2024年5月26日

<主審> 試合全般の進行・判定・宣告。

(試合開始)

- 1、ピッピの笛と「選手集合」をコール。選手がセンターサークル付近まで来たら、サイドサークルを指す。
- 2、整列後、服装・靴ひもなどの安全確認後、「只今より〇コート第〇試合、(チーム名)対(チーム名)の試合を始めます。  
この試合、主審〇〇・副審〇〇で行います。(では、元気よくあいさつしましょう!)気をつけ!お互いに礼」
- 3、センターサークル付近で選手の配置と人数確認後、コート審判を笛で(指差し)確認。
- 4、ピッピの笛で選手を立たせ、「ジャンプボール」の宣言。計時審判に確認し、ジャンパーの手より60~70センチの高さにトスを上げる。
- 5、ジャンパーがトスボールにタッチした瞬間に短い笛。内野手が確保・保持してから20秒カウントスタート。  
(状況によってはやり直す) 最高点前に叩いた場合や、トスが著しく反れた場合など。

>メモ:

(試合) ※試合を中断(笛と声で計時審判に合図・選手座らせる)カッコ内以下省略

- 1、内野手保持にて20秒カウント開始。最初の2回パス実行・ダイレクト有無の確認。
- 2、アウトは笛と同時に当該選手をさし、「〇番アウト」コールと挙手。セーフはジェスチャーでよい。(状況によりコール)  
アウトになった選手をサークルから外野に誘導する。
- 3、ヘッドダイレクトの場合は試合を中断。選手の安全確認。出場判断は監督に委ねる。
- 4、オーバータイムはピッピの笛と「ボールバック」ジェスチャーと「オーバータイム」コール。「(△チーム名)ボール」
- 5、ボールデッドは笛とジェスチャーと「ボールデッド」コール。「(△チーム名)ボール」
- 6、ワンタッチ:一方のチームが攻撃中、ボールが相手選手に触れた場合(アウト以外)は、ジェスチャーと「ワンタッチ」  
コールし、20秒カウントはリセットする。(ルーズボールになった時は攻撃側の選手が確保・保持した時点から計測)
- 7、反則は笛と「ボールバック」コールで副審にボールを戻した後、声とジェスチャーで  
「(〇チーム名)〇番(反則名)。(△チーム名)ボール」コールで試合再開。
- 8、メンバーチェンジは試合が中断した時(副審にボール)、副審・記録審判両名で、副審側サイドサークル内で行う。
- 9、作戦タイムは試合を中断して、主審・記録審判両名で、センターサークル付近で内野選手の人数・背番号確認。  
笛で選手を立たせ、「(チーム名)作戦タイム30秒」コール。  
同時に計時審判も主審に付き添い計時する。(主・副審で攻撃20秒カウントの経過を確認する)  
選手全員ベンチに戻ってから笛で計測開始。(残り10秒で「10秒前」宣言。)30秒後、笛と「作戦タイム終了」宣言。  
再び主審・記録審判両名で、センターサークル付近で内・外野選手の人数・背番号確認後、笛で選手を立たせ、  
「残り〇秒(チーム名)ボールで試合再開」を宣言。(副審からボール投入、内野手捕球時短い笛)
- 10、審判協議は試合を中断して、センターサークル付近に線審・副審を集め協議する。終了後、笛で選手を立たせ、  
協議内容・結果を報告する。「(チーム名)ボール」の声で試合再開。(副審からボール投入、内野手捕球時短い笛)  
(審判協議は主審判断で計時・記録審判を呼ぶことができる)
- 11、試合終了は長い笛とジェスチャーで試合を止める。残った内野手を整列させて人数確認後、記録審判に伝える。  
前半終了時は「3分間ハーフタイム」宣言と笛。後半終了時は外野手および控え選手・監督を整列させ、  
「結果発表します。(〇〇チーム名)前半〇、後半〇、合計〇。  
(△△チーム名)前半〇、後半〇、合計〇。〇対〇で(〇〇チーム名)の勝ちです。」宣言し、  
勝ったチーム側の手を高く挙げる。引き分けは両手を挙げる。  
「最後に大きな声で挨拶しましょう!気をつけ!お互いに礼」

>メモ:

<副審> 主審補佐・判定・メンバーチェンジ・作戦タイム・ボール投入。

- 1、試合前に両チームキャプテンを呼び、ジャンケンでコート決めする。試合中は常にボール1個保持する。
- 2、ボールバック時、選手からボールを受け取る。
- 3、試合中断時、ボール位置の確認・管理の責任を持つ。(コートに置く)
- 4、試合再開時、主審の指示を確認し、内野コート中央に向かってボールをゴロで投入。(選手が近い時は下がらせる)
- 5、ベンチからのタイム要請で長い笛とジェスチャーで試合を止める。どちらのチームのタイムか確認し主審に伝える。  
ボール位置の確認・管理の責任を持つ。(コートに置く)
- 6、計時審判から1分前コールが出たら、両ベンチにジェスチャーと大声でコール。この時、ボールから目を離さないこと。
- 7、判定はジェスチャーで行う。状況により笛で試合を止めることができる。ボール位置の確認・管理の責任を持つ。
- 8、アウトになった選手をサークルから外野に誘導する。
- 9、試合中断時、メンバーチェンジの要請があれば主審に伝え、記録審判と共にサイドサークル内にて選手の交代を行う。  
入・退場の選手同士をタッチさせる。(緊急の場合はタッチ不要)
- 10、試合終了時、外野手を内野に誘導する。(外野人数の多いチームを先に)その後、控え選手・監督を誘導。

>メモ:

<線審> 主審補佐・判定・ボールデッド

- 1、ラインクロス・アウト・セーフ・ボールデッド・ファールのなどの判定をする。
- 2、ラインクロス:捕球・投球前後の選手のラインクロスを見る。
- 3、アウト:当該選手を旗でさす。この時、ラインクロスの再確認を!
- 4、セーフ:両手を広げる。(選手に当たらないように注意して)
- 5、ボールデッド:ボールが外野ラインに触れるか、ライン外に接地したら旗を高く挙げる。
- 6、判定はジェスチャーで行う。状況により笛で試合を止めることができる。(該当選手の背番号を要確認)
- 7、外野手が多くなって来た時、立ち位置は選手優先に行動する。
- 8、試合終了時、副審側線審は外野手を整列させる。
- 9、状況により、線審同士で役割分担すると良い。

>メモ:

<計時審判> 試合時間全般管理

- 1、主審の笛により時間を計る。試合開始時・中断時・再開時スタート・ストップする。(スタート時は立って拳手にて押す)  
万が一主審の笛(合図)が無かった場合、状況判断でスタート・ストップする。
- 2、作戦タイム時、主審と共にセンターサークル付近で30秒を計時する。10秒前になったら主審に告げる。
- 3、1分前のコールをする。表示板を掲げて(5秒以上)コート全般に伝える。(副審が気付くように大声で!)
- 4、試合残り時間10秒前を、主審の後ろに立ち主審に告げる。残り5秒をカウントダウンする。(主審に触れない)
- 5、審判協議時、主審の要請で協議に参加する。
- 6、ハーフタイム3分を計る。
- 7、笛は吹くことができない。
- 8、万が一1分前コールを忘れた場合、試合が中断した時に主・副審・ベンチに残り時間を伝える。

試合が中断しなかった場合、この限りではない。

>メモ:

### <記録審判> 記録全般

- 1、試合記録表をつける。
- 2、メンバーチェンジ: 副審側サイドサークルで副審と共に確認・記録。
- 3、作戦タイム開始前・後の選手の人数・背番号を、センターサークル付近で主審と共に確認・記録。
- 4、前半終了時、両チームの得点を記録する。試合終了時、両チームの得点の記録・集計をし、主審に渡す。
- 5、審判協議時、主審の要請で協議に参加する。
- 6、笛は吹くことができない。

>メモ:

### <ボール管理員> 審判ではないが・・・

- 1、副審の後ろ(コート外)に位置し、試合中副審にボールを渡す。
- 2、ボールデッドの時は、副審にボールを渡してから回収する。
- 3、出来るだけ副審を振り向かせないように渡す。

>メモ:

### <整列>

- 1、試合開始前は、主審がサイドサークル内にて「選手集合をコールする」その時、副審は、主審の後方(左右どちらか)。線審は、副審の横方向に2名ずつ其々のコート側に並ぶ。記録と計時は、副審の後方に整列する。
- 2、試合終了時は、上記同様に整列する。

>メモ:

### <全般>

- 1、試合中の笛・コールは、「大きくはっきり」公明・公正に行う。
- 2、審判協議の時は素早く集合・解散する。
- 3、外野手が内野に戻る時のラインオーバーを見る。
- 4、安全のための審判による中断(ボール混入、靴ひも、ケガなど)は、再開時、残り10秒か20秒で再開する。
- 5、主審及び副審は、アウト判定時に 誤って外野へ出た内野選手を内野に戻すことができる。  
また、線審・記録員・計時員の場合は、主審に報告し同様の処置を行うことができる。
- 6、高学年男子はビブス着用とし、攻撃はできない。
- 7、コート主任・計時・記録審判は試合進行上に問題がある場合、主審に提言できる。

>メモ:

### <コート作成>

- 1、白線はメジャーで計ったラインの外周を引く。
- 2、センターラインだけはメジャーで計ったラインの真上に引く。

>メモ: